

亀山城跡 (浮田小) 遺跡発掘調査概報

上道郡亀山 (沼ノ) 城古図

I, 発掘調査の概要

- ①発掘の目的 浮田小学校増築工事に先立って、亀山城西ノ丸の周辺部に試掘調査を行いました。亀山城には石垣が無いと考えられていますが、その有無をはっきりさせるためでした。試掘調査では、石垣は確認されませんでした。ところが、城郭の外と思われていたところに、土盛りの跡が確認され、急遽、この土盛りの性格を明らかにする必要が生じました。
- ②発掘期間 1989年7月1日から8月12日までの35日間
- ③発掘でわかったこと
別紙のとおり

II, 亀山城の概要

亀山城は岡山市沼にあり、別名沼城とも呼ばれます。砂川流域の小丘陵に築かれた山城ですが、周囲は湿地帯に囲まれ、自然の堀の役割を果たしています。天然の要害に恵まれた、難攻不落の連郭・輪郭折衷式の城なのです。

亀山城は、中山信正が天文初年(1532頃)に築いたとされています。その後、宇喜多氏が中山氏を謀殺し城を奪い、備前平定の本拠地としました。そして、宇喜多氏が関が原の戦いで滅亡し、小早川秀秋が備前領主になると、亀山城は廃城にされ、その使命を終えました。小規模な城ながらも亀山城は、戦国の岡山を語る際に無視できない歴史を持った城なのです。

当時の城の状況を示す資料としては、江戸時代に描かれた絵図が残されていますが、今回の発掘区は、亀山城の西ノ丸の周辺にあたり、かつては城郭外と思われていたところです。しかし、今回の発掘の結果から、この絵図に描かれた様子は江戸の中頃、つまり廃城後の様子と一致することが判明し、発掘区も城郭内であることが判明しました。

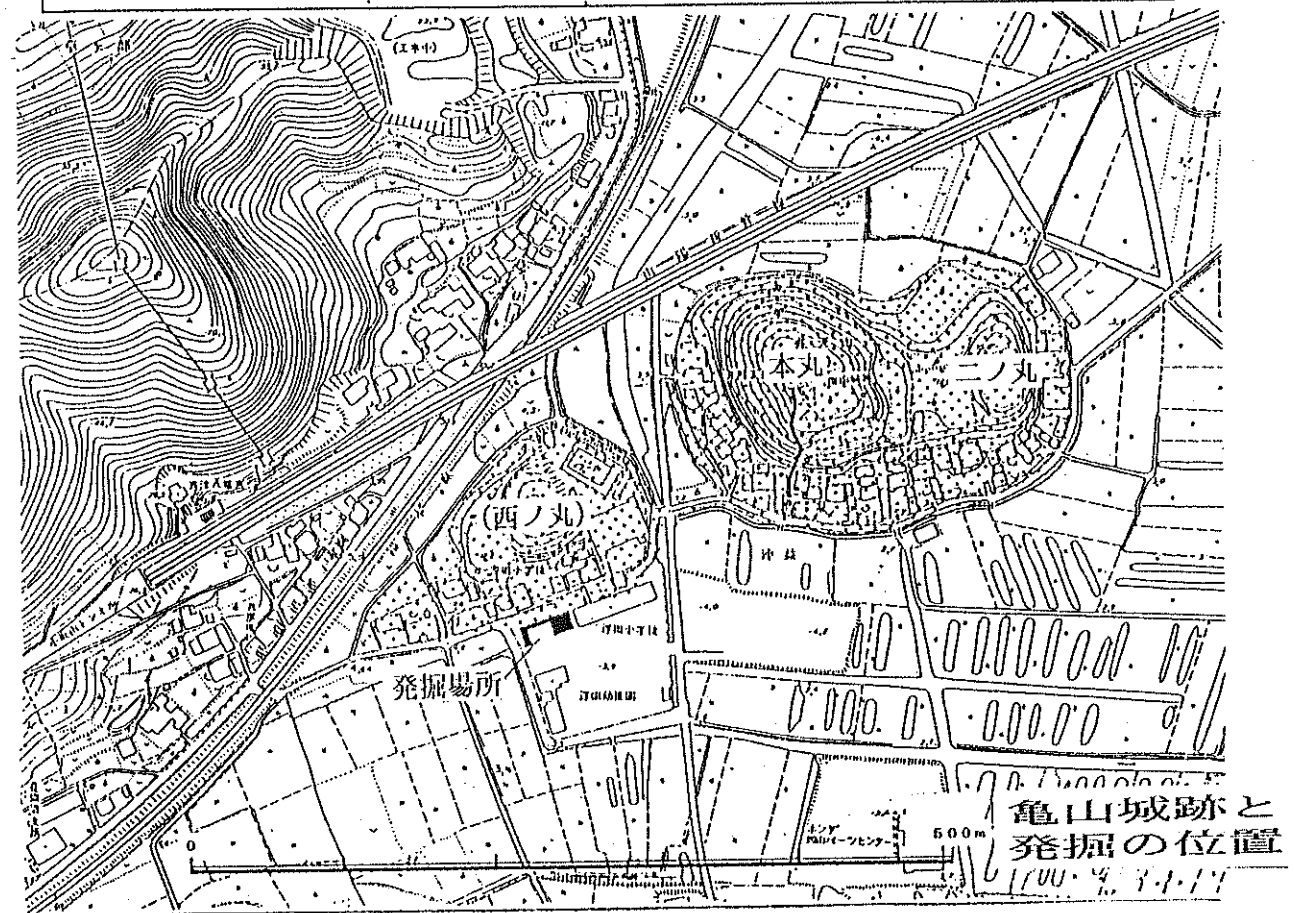
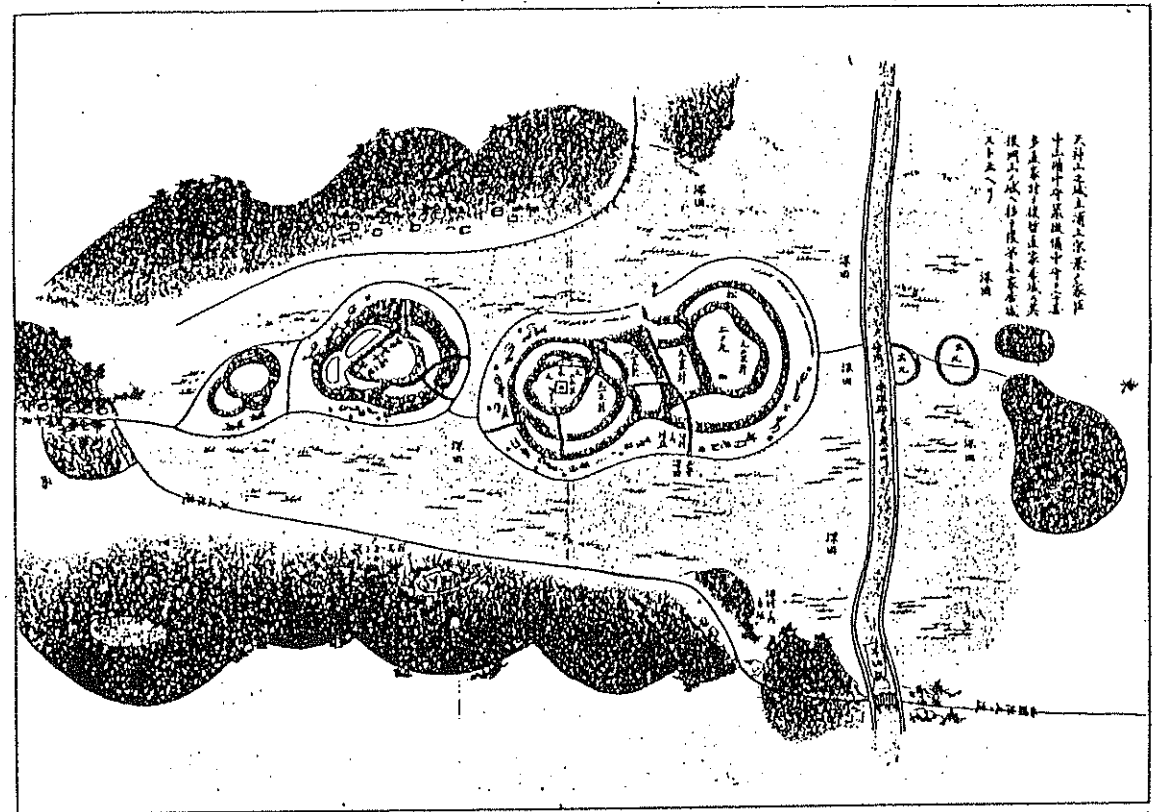
亀山城の規模は、従来考えられていたより大きくなり、縄張り等に関しての大きな変更はないものの、細部の再検討の必要に迫られることとなったのです。このことが、今回の発掘の最大の成果でもあるのです。

余 録

「備前軍記」に、羽柴秀吉が備中高松の役に進軍の途中、「沼村に昼休みありけるに、沼城の南の山の側に岡山より新敷飯屋を造て、種々饗応ある」と記されている。場所の特定、真偽のほどは判らないが紹介しておきます。

III, 亀山城関係年表

西 暦 年 号	できごと
1532 (天文初) 年ごろ	・中山信正がすでに居城していた。 ・正確な築城時期は不明
1551 (天文20) 年	・中山信正、宇喜多直家の舅になる。
1559 (永禄2) 年	・宇喜多直家、中山信正を謀殺。亀山城を奪う。
1566 (永禄9) 年	・三村家親勢、亀山城を攻略。宇喜多直家、これを撃退。
1570 (元亀元) 年	・宇喜多直家、岡山城主金光宗高を謀殺。岡山城を奪う。
1573 (天正元) 年	・宇喜多直家、岡山城を大改修。居城とする。 ・浮田春家(直家の舎弟)、亀山城の城主になる。
1600 (慶長5) 年から 1603 (慶長7) 年まで	・小早川秀秋、亀山城を廃城にする。 ・亀山城の主要建築物を岡山城に移築、活用。 ・岡山城の大納戸櫓は亀山城天守閣(中心櫓か)からの移築と伝える。



発掘でわかったこと

I, 小学校建築の直前

①判明した遺構

溝1、9、10

②出てきた物

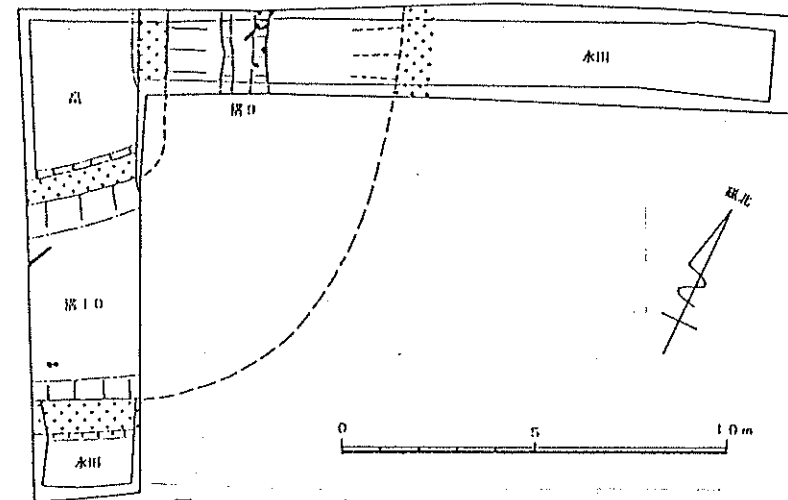
備前焼、有田焼、ガラス瓶

③調査でわかったこと

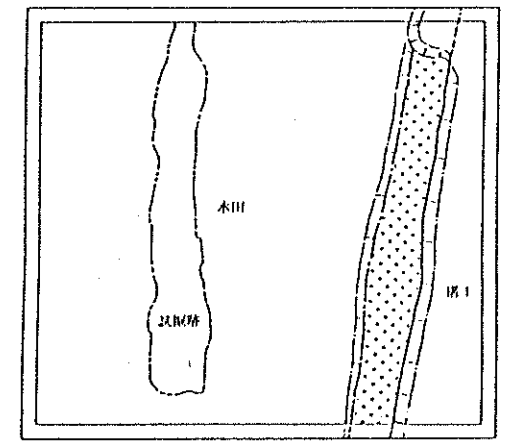
現小学校が建設される直前の様子を示しています。

溝1、9、10は基幹用水路と溝です。当時、この辺りが水田であったことがわかりました。

網目の部分はアゼ。



I, 小学校建築の直前



II, 江戸時代中頃 (18世紀ごろ)

①判明した遺構

溝2、3、4、5、6、7、8

窪地4、5

②出てきた物

備前焼 (小皿、摺鉢、かめ)、唐津焼 (碗、鉢)

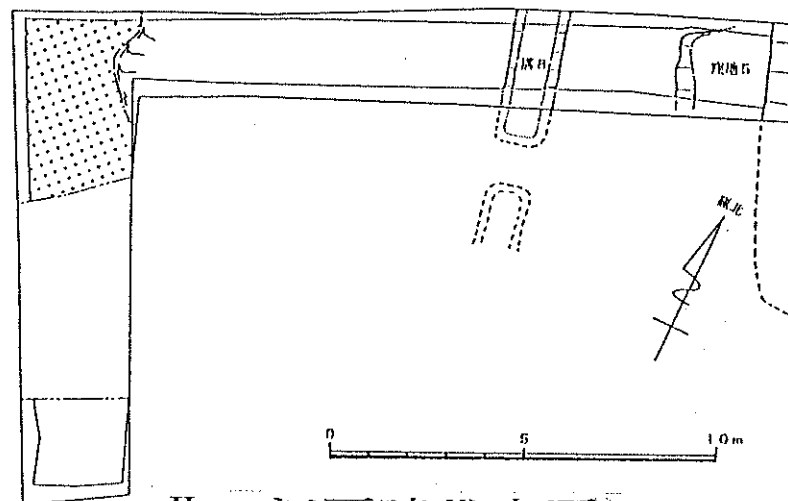
③調査でわかったこと

溝2、4、6、7、8は、いまでも、この辺りの水田によくみられる「水抜き溝」です。この辺りが、この頃も水田、それも湿地状態の水田であることがわかりました。そして、この頃の様子が「上道郡亀山城古図」に描かれていることが判明しました。

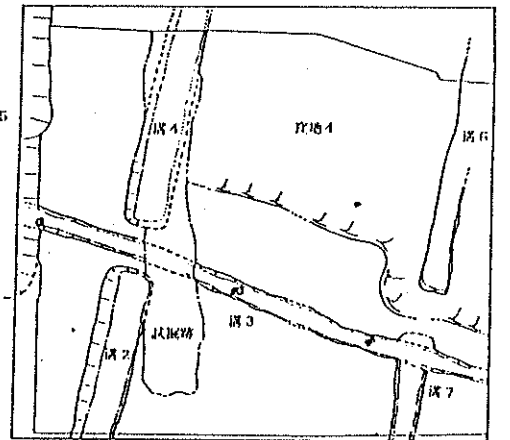
溝3は、少し若い時期の用水路です。

溝5は、このなかでは一番若い時期のゴミ穴です。ここから多くの焼き物が出ました。

網目の部分は、一段高い所。



II, 江戸時代中頃



III, 戦国末～江戸時代初期 (16～17世紀ごろ)

①判明した遺構

窪地1、2、3

土壙1、2、3

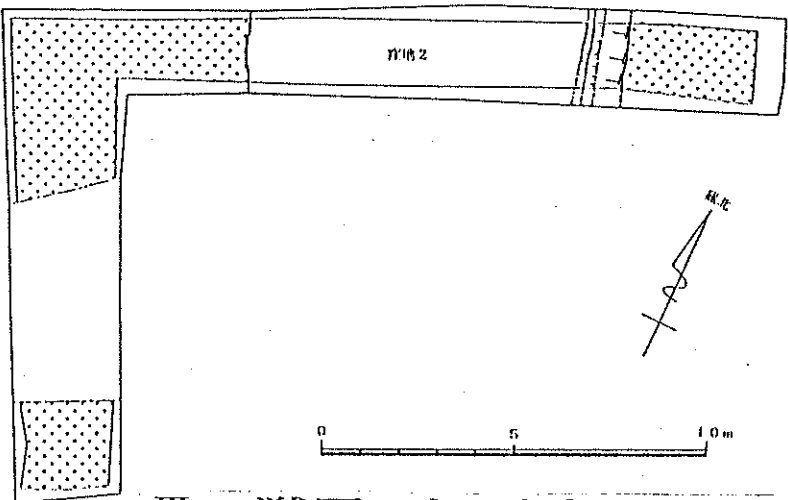
②出てきた物

備前焼 (かめ)、漆碗、箸、羽子板?、土錘 (網の重り)、木の実

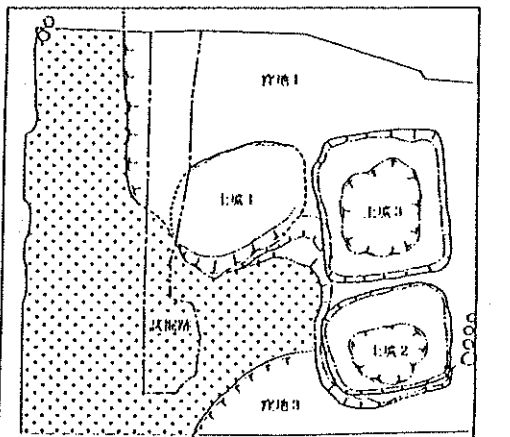
③調査でわかったこと

網目部分は、造成盛土。亀山城築城時あるいは廃城時の造成土です。

土壙1、2、3は、炭灰が詰まっており、廃材の処理場あるいは日常生活のゴミ捨て穴と思われます。また、窪地1、2は木の实や葉が大量に堆積しており、池・沼であったと思われます。あるいは、造成土と結びつけて池園の可能性も考えられます。



III, 戦国～江戸時代初期

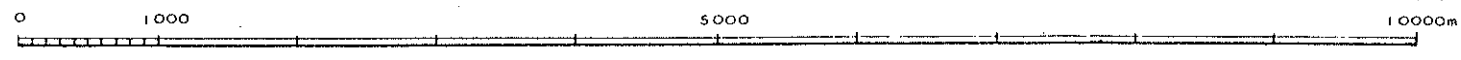
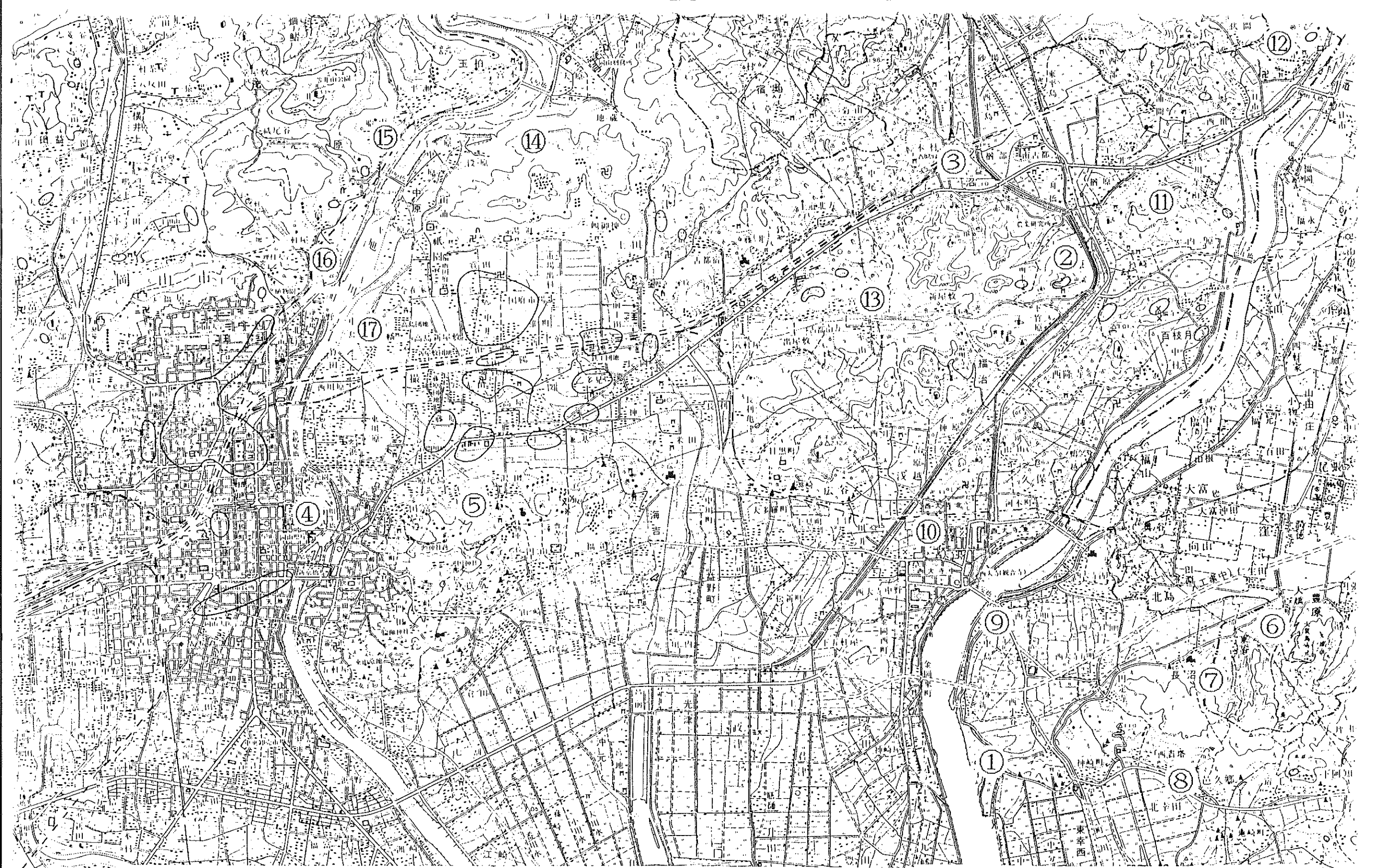


宇喜多直家略年表

西 暦 年 号	年	で き ご と
1529 (享禄2) 年	1	・直家、興家の長男として邑久郡砥石城で生まれる。
1534 (天文3) 年	6	・祖父能家、島村貫阿彌に攻められ砥石城にて自殺する。 直家、邑久郡福岡に遁れ、後に興家と備後の頼に隠匿する。
1535 (天文4) 年	7	・興家、直家、頼から福岡の阿部善定のもとに身を寄せる。
1536 (天文5) 年	8	・興家、病死。母、邑久郡笠加村の尼寺に寄食する。
1543 (天文12) 年	15	・直家、浦上宗景に仕官し、播磨とへ初陣する。功賞あり。
1544 (天文13) 年	16	・元服し、三郎左衛門直家と称す。邑久郡乙子城に城砦を構える。
1545 (天文14) 年	17	・直家、砥石城主浮田大和を攻略する。戦功なし。浮田大和、乙子城を攻める。戦功なし。乙子、砥石城の対抗、以後4年に及ぶ。
1549 (天文18) 年	21	・砥石城を攻略し落とす。上道郡竹原の新庄山城に移る。義弟忠家を乙子城主に置く。
1551 (天文20) 年	23	・亀山城主中山備中守信正の女婿となる。
1559 (永禄2) 年	31	・直家、中山信正と島村貫阿彌を殺し、亀山、砥石城2城を落とす。直家、亀山城に移る。
1561 (永禄4) 年	33	・直家、龍ノ口城主榎所治部元常を攻略し落とす。
1566 (永禄9) 年	38	・直家、備中から勢力を伸ばしてきた三村家親を美作で暗殺する。三村勢の攻撃に備えて、岡山市沢田の明禅寺に城を築く。
1567 (永禄10) 年	39	・明禅寺合戦で三村勢と争い、これを破る。岡山城の金光氏、舟山城の須々木氏、中島城の中島氏は直家に服属し、以後直家の西備前の掌握が定まった。
1568 (永禄11) 年	40	・直家、金川城を落城させ、松田氏滅ぼす。
1569 (永禄12) 年	41	・浦上勢の日笠源太を殺し、伊部城を落とす。浦上勢の富田松山城と対峙するが、決着つかず。
1570 (元亀元) 年	42	・備中幸山城、皆部城、天王山城を攻略し、備中に進軍する。金光宗高を自殺させ、岡山城を取る。
1571 (元亀2) 年	43	・毛利勢の作州皿山城を落とす。
1572 (元亀3) 年	44	・作州佐加山城を落とす。
1573 (天正元) 年	45	・直家、岡山城を改修し居城とする。浮田春家を亀山城に置く。
1574 (天正2) 年	46	・毛利輝元、小早川隆景、備前に進軍し虎倉城を攻める。
1575 (天正3) 年	47	・直家、毛利氏とともに三村氏を滅ぼす(備中兵乱)。 毛利氏とともに児島の常山城を落とす。
1577 (天正5) 年	49	・直家、浦上久松丸を擁して、浦上宗景の天神山城を攻略する。続いて富田松山城を落とす。
1578 (天正6) 年	50	・上月合戦。
1579 (天正7) 年	51	・直家、伊賀左衛門が守る虎倉城を落とす。作州に入りて毛利勢の三星城を落とす。小早川隆景、備前に進出。直家、辛川で合戦、これを防ぐ(辛川合戦)。
1580 (天正8) 年	52	・小早川隆景、児島に入り岡山を窺う。
1581 (天正9) 年	53	・直家病死。
1582 (天正10) 年		・直家の喪を発する。備中高松の役。

宇喜多直家関連城跡

- ① 乙子城 ・浦上宗景に仕えていた宇喜多直家が、1544(天文13)年に宗景の命によって、この地に城砦を構え城主となり、戦国大名へ成長するの第一歩となった城。
- ② 新庄山城 (奈良部城) ・亀山城の支城として築かれ、中山信正の家臣、新庄助之進が居城していたと伝える。後に、浦上宗景が宇喜多直家に戦功の賞として与え、直家の居城となる。
- ③ 亀山城 (沼城) ・別紙資料参照
- ④ 岡山城 ・古くは石山を中心とした名主層(国侍)の居城であって、1532(天文元)年ころには金光備前が城を構えていたという。そしてその子、宗高の代に宇喜多直家に城を奪われ、以後、宇喜多直家、秀家、小早川秀秋、池田忠雄と改修が行われ、現在の姿になった。直家の時期の本丸は現在のNHKの東であったという。秀家の時の改修で、城下の様子が現在に近い姿になった。
- ⑤ 明禅寺城 ・宇喜多直家が、1566(永禄9)年に、岡山平野の押さえと備中国への備えのために築いた。宇喜多対三村の明禅寺合戦の舞台の一つである。
- ⑥ 砥石城 ・宇喜多直家、出生の城。邑久千町平野を本拠地としていた宇喜多能家の居城。能家の父の代に築城されたと思われる。一度、島村貫阿彌に攻められ奪われたが、直家が祖父の仇を果たし、奪還した。
- ⑦ 高取山城 ・砥石城を攻略した島村貫阿彌が居城していた。邑久千町平野の南部を本拠地としていた島村氏が築き、代々この城を拠点に勢力を維持し、浦上氏に仕えていた。
- ⑧ 邑久郷城 ・邑久郡南部の国人、宇喜多氏一族の居城。
- ⑨ 浜ノ城 ・国人の宇喜多氏一族の浮田宗円の居館。
- ⑩ 八幡山城 ・宇喜多直家の舎弟である浮田忠家の一時の居城。
- ⑪ 大日幡山城 ・1483(文明15)年の福岡合戦では松田氏方の陣地。戦国時代後半に浦上宗景に従う国人の島村貫阿彌が在城していた。
- ⑫ 吉井城 ・福岡合戦の松田元成の本陣。土塁、曲輪、堀切等を伴う本格的陣地。
- ⑬ 内山城 ・初め松田氏、後に浦上宗景に従っていた国侍、中山信正の支城の一つ。
- ⑭ 竜ノ口城 ・松田氏が、天文年間(1532~55)年の終わりごろに、上道郡西部と赤磐郡南西部を押さえるため、榎所元常を城主として築いた。
- ⑮ 舟山城 ・御野郡北東部を本拠地としていた須々木氏が築いた城。須々木氏は三村家親に攻められ降伏し、従っていたが、三村が宇喜多直家に滅ぼされると、直家に従属を申しでた。しかし、認められず領地を没収され城も廃城となり、須々木氏は滅亡した。
- ⑯ 明見山城 ・舟山城の出城。天正年間頃には築かれていた。
- ⑰ 中島城 ・戦国時代に金川城主の松田氏に従った名主層の中島氏代々の居館。宇喜多直家が攻略した。



宇喜多直家と関連城跡

資料4